

【点から線へつなげる教育】

学校には、授業や様々な生徒活動、学校行事などがあります。

例えば、数学の授業では、小学校で身につけた計算力（かけ算や割り算など）をもとに、 X や Y といった記号を使う1次関数から、 X^2 のような記号を使う2次関数へと少しずつ深い内容を学習していきます。さらにこれが高校では微分積分などへとつながっていきます。このように教科では、各単元がばらばらに存在するのではなく、つながりをもたせた配列となっています。このことにより、生徒たちは少しずつ考える力をつけていくこととなります。

では、生徒活動はどうでしょうか。

生徒活動では、学級会や委員会、生徒会など集団を組織しながら、自分たちで課題を見つけて解決したり、いろいろな行事を自主運営したりする活動を通して自治力を身につけていきます。ここでも各活動のつながりが大事になってきます。

学級会では4月に学級目標を考えます。その後、日頃の生活の中で課題が出てきた時、学級委員長を中心に生徒たちで話し合いを進め、よりよい学級を目指していきます。

また、学校全体を考えたとき、例えば読書活動推進のために図書委員会があったり、健康や衛生環境を整えるために保健委員会があったりして、生徒自身が自分たちで学校環境を良くしていきます。

そして、これらの集団を統制し、学校全体としての活動を進めていくのが生徒会です。生徒総会もそうですが、本校では体育祭と文化祭もすべて学校祭というくくりで生徒会主催の活動に位置付けています。体育祭や文化祭の内容を決めるのも生徒ですし、実際の運営も生徒が行います。学級会、各委員会、そして生徒会がつながり、さらには生徒会行事につながりを持たせることで、生徒の自治力育成をねらっています。

最後に、修学旅行についてお話しします。

本校では昨年度から、第2学年の3月に修学旅行を実施することとしました。現3年生は、3月13日～15日に関西方面に出かけてきました。ではなぜ、それまで3年生の6月ごろに実施していた修学旅行を3月にすることにしたのか、その狙いを説明します。



万博記念公園にて調査活動

本校では、学校をあげてあわら市の未来を考える「あわら考幸学」に取り組んでいます。生徒たちが課題を設定し、その課題解決のための方法を提案するものです。そして結論付けた内容は3年生の文化祭で中間発表を行い、その後、論文という形でまとめることとなります。

この課題解決のため生徒たちには学校を飛び出し、様々な情報を入手してることが必要となります。そのため今まで「遠足」としていた活動を、「調査活動」と名称を変え、1年生の時から計画的に進めています。その一環として修学旅行を位置づけたのです。

旅行後、生徒たちは入手してきた情報をもとに「あわら考幸学」のまとめをしていく必要があります。6月に出かけて行っていたのでは、まとめをする時間がありません。このことを鑑みて修学旅行を3月に行い、半年かけて一連の研究のまとめを行うこととしたのです。

また、修学旅行を3月に行うことで、6月に行われる中体連地区大会にも、生徒はより集中して臨むことができるようになりました。

修学旅行は、積み立てた貴重なお金を使うこととなります。3年間のいろいろな活動とつながりを持たせながら、将来に役に立つ力を育てられるよう工夫を凝らして実施しています。